

地域枠・地域の医師確保に関する全国調査

2020年4月1日
全日本医学生自治会連合

1. 本調査の背景・目的
2. アンケート結果
 - 2-1) 回答者の属性
 - 2-2) 医師不足地域で働く医師に対してどのような支援が必要か？
 - 2-3) 従事義務が足かせに
 - 2-4) 「地域枠でない学生」が地域枠に対して抱く不満
 - 2-5) 制度の説明は未だ不十分
 - 2-6) 説明時期、説明回数にも工夫を求める声
 - 2-7) 具体的なキャリアパスの提示を求める声
 - 2-8) 地域枠当事者の満足度は低い
3. まとめと提言
 - 3-1) 契約内容の明確化・遵守
 - 3-2) 在学中にも手厚いフォローアップを
 - 3-3) 学生の声を取り入れられるように
4. 結語 ～管理より支援を～

1. 本調査の背景・目的

地域枠は、全国的な問題である医師偏在・医師不足対策を主な目的として各大学・自治体で設定された枠組みです。本来は地域医療を守るために地域医療に従事することを決めた医学生を後押しするものである必要があります。しかし最近では、地域枠制度の強制力が増し、地域偏在対策としての側面が強くなってきており、「地域医療に従事したいと考える医学生を後押しする制度」からかけ離れていくのではとの懸念があります。また、地域枠には法的拘束力がありません¹が、地域枠で入学した学生に対する道義的責任を問うべきとの意見も各都道府県等からは挙がっています。

宮崎大学では、入学時に契約した内容と異なる従事義務内容を入学後に提示される事例がありました。宮崎大学では現在在学中の地域枠学生には、奨学金をもらわず義務年限がない地域枠（枠①とする）で入学した学生と、奨学金をもらう義務年限のある地域特別枠（枠②とする）で入学した学生がいます。今年度になって、大学から義務年限が伸びるかもしれないという話が挙がり始めました。その後、12月に学生へ向けた説明会があり、枠①の学生

¹ 地域枠の従事義務要件は、各自治体が貸与した奨学金の返済免除に対する要件と、大学入学選抜の応募要件として課した義務履行条件（卒後進路指定・奨学金需給指定）に分類することができます。前者は各自治体と個人間の民法契約であり、返済によって従事義務は解消される一方で、後者に関しては、指定研修先や年数の不確定から有効条件を満たさないこと、憲法上の職業選択の自由及び居住移転の自由の観点に抵触することから法的拘束力は発生しないと考えられます。ゆえに、奨学金を返済した場合や奨学金を伴わない場合には、従事義務は法的には解消されると考えられます。

も枠②の学生も実質9年間の宮崎県内での勤務が必須になり、そのことに関する同意書のへ署名が求められました。大学側からは、学生がキャリアを積む上で不利益がないように努めているという意向は伝えられましたが、契約内容が変わる上で学生への説明が不十分だったことや、6年生のマッチング期間には何も説明がなかったことなどから、学生の間には不安が広がっていました。

全国の自治会懇談などを通じて、他の大学でも同様に地域枠制度に関する不満の声が挙がっていることが明らかになりました。そこで、全日本医学生自治会連合では、全国の地域枠制度の実施状況を改めて確認し、また、医学生が地域枠制度に対してどのように感じているのか、医師数の不足・地域偏在に関してどう考えているのかを調査することを目的に、全国の医学科学生を対象として2019年12月～2020年3月にかけてアンケート調査を実施しました。

2. アンケート結果

2-1) 回答者の属性

51医学部から計2423件の回答を得ました。回答者の属性は以下の表のとおりです。

学年	人数	割合
1年	436	18.0%
2年	583	24.1%
3年	558	23.0%
4年	528	21.8%
5年	175	7.2%
6年	119	4.9%
回答なし	24	1.0%
合計	2423	100.0%

性別	人数	割合
男性	1349	55.7%
女性	1028	42.4%
回答なし	46	1.9%
合計	2423	100.0%

地域枠制度を知っていますか？	人数	割合
知っている	2077	85.7%
知らない	68	2.8%
回答なし	278	11.5%
合計	2423	100.0%

医師偏在に対する関心 大いにある(5)～ない(1)	人数	割合
5	417	17.2%
4	892	36.8%
3	733	30.3%
2	193	8.0%
1	160	6.6%
回答なし	28	1.2%
合計	2423	100.0%

この問題について、解決すべきだと思っていますか。	人数	割合
はい	2189	90.3%
いいえ	171	7.1%
回答なし	63	2.6%
合計	2423	100.0%

アンケート回答者における学年の割合は上の通りです。講義の間の休み時間にアンケート回答・回収が可能な4年生以下の回答の割合が多くなりました。また、回答者の男女比は、男性が55.7%、女性が42.4%でした。

「地域枠制度という制度があることを知っていますか。」という質問には、85.7%が知っていると回答し、地域枠の存在は十分に学生に認知されていると考えられます。

医師偏在に対する関心について、大いに関心がある、まあまあ関心があると回答した学生が合わせて54.0%におよび、また、医師偏在の問題については、90.3%が解決すべきであると回答したことから、医師偏在の問題に対する関心は学生には十分にあると言えます。

このアンケートの回答者において、地域枠学生の割合は24.8%で、全体のおよそ4分の1でした。また、地域枠学生ではない学生のうち、地域枠制度の利用を検討したことのある学生は30.3%でした。

2-2) 医師不足地域で働く医師に対してどのような支援が必要か？

「医師不足地域で働きたいと考えている医学生や医師に対して、どのような支援があれば良いと思いますか。また、どのような支援があれば、医師不足地域で働きたいと考える医学生・医師が増えると思いますか？（複数選択可）」という質問に対しては、「金銭的優遇（奨学金、給与など）」が必要と考える学生が78.8%に上りました。次いで、「生活環境に対する補助（保育施設、教育施設、住宅補助など）」が50.3%、「充実した研修体制」が50.0%、「社会福祉制度」が48.1%、「希望する診療科の充実／専門医取得」が47.3%、「労働環境」が46.0%と続きました。また、

「また、大学に入学した後にモチベーションが下がらないように、もう少し地域に出る実習が増えてほしいです（2年・男性）」

など、医学教育において地域医療に携わる機会を求める声も挙がっています。

どのような支援があれば良いと思いますか。	全体 (n=2423)	地域枠学生 (n=600)	非地域枠学生 (n=1514)
金銭的優遇	75.3%	76.0%	75.6%
入試で有利	19.6%	23.0%	18.4%
研修体制	47.8%	58.3%	44.0%
社会福祉制度	45.9%	52.3%	43.9%
学会・研修	17.6%	22.8%	16.1%
生活環境	48.0%	53.5%	46.6%
地域の魅力	11.9%	14.2%	10.8%
診療科/専門医	45.2%	55.5%	41.2%
労働環境	43.9%	46.8%	43.0%
大学からの指示なし	16.9%	24.8%	13.9%
どのような支援があっても働こうとは思わない	3.3%	2.2%	3.5%
その他	2.1%	2.0%	2.5%

また、この質問への回答結果を「地域枠学生」と「地域枠でない学生」に分類すると、特に地域枠学生で回答した割合が高かった項目が「研修体制の充実」(58.3% vs 44.0%)、「希望する診療科の充実／専門医取得」(55.5% vs 41.2%)でした。地域枠の当事者として、キャリア形成に関する支援をより必要と感じていることがわかりました。

また、学生は卒後のキャリア形成だけではなく、ライフプランや生活環境に関する不安ももっています。

「女性医師の場合、結婚・出産後も職場に復帰しやすい社会環境が必要だと思います(3年・男性)」

「プライバシーを守った上で、医師の家庭環境づくりの自由を守る配慮を県や雇用側が行うべきだと思います(2年・女性)」

このような意見のように、学生は卒後の地域での生活に不安を感じています。そのため、保育・教育・介護への支援や生活支援を行うことや、学生が卒後の生活に不安が生じることのないように説明を加える必要があると考えられます。

2-3) 従事義務が足かせに

さらに、「大学などからの指示(特定地域での従事義務など)が課されない」という項目への地域枠学生の回答割合は24.8%にも上り、およそ4人に1人の地域枠学生が特定地域での従事義務に対して否定的に捉えていることがわかりました。その背景として、自由記述からは

「地域で働きたいと思う人にはとても魅力的だが、一方で入学してからその気持ちが変わったり結婚などがあった場合、足かせにもなりかねないと思う(4年・女性)」

といった声が挙がりました。

「義務年限に従事する時期を広げる(例えば20代のうちに何年間、30代のうちに何年間)などのような方法もありではないかと思う(5年・女性)」

というように、柔軟な対応を求める意見もいくつか挙がりました。

2-4) 「地域枠でない学生」が地域枠に対して抱く不満

地域枠ではない学生からは地域枠に対する不満として、

「地域枠でない身からすると奨学金をもらってない分、出身大学の都道府県に残るのは損だと感じてしまう。地域枠以外の人にも残ってほしいのなら地域枠の学生と比べて損してないと思えるような待遇がほしい(6年・男性)」

といった意見が挙げられました。地域枠でない学生からみると、給付型の奨学金をもらっている学生と同じ地域枠の指定病院に就職することが不公平であり、負のインセンティブになりうることを示唆しています。

また、入試制度に対する不満として、

「地方の地域枠は入試難易度が低く、入学もしやすいのに、地域で働く義務を放棄するのは、真面目に勉強してきた学生に対して失礼である（6年・男性）」

といった意見がありました。地域枠入試は一般入試に比べて合格の難易度が低いため、地域枠で入学した後に離脱するのは不公平であるという認識も根強く残っているようです。

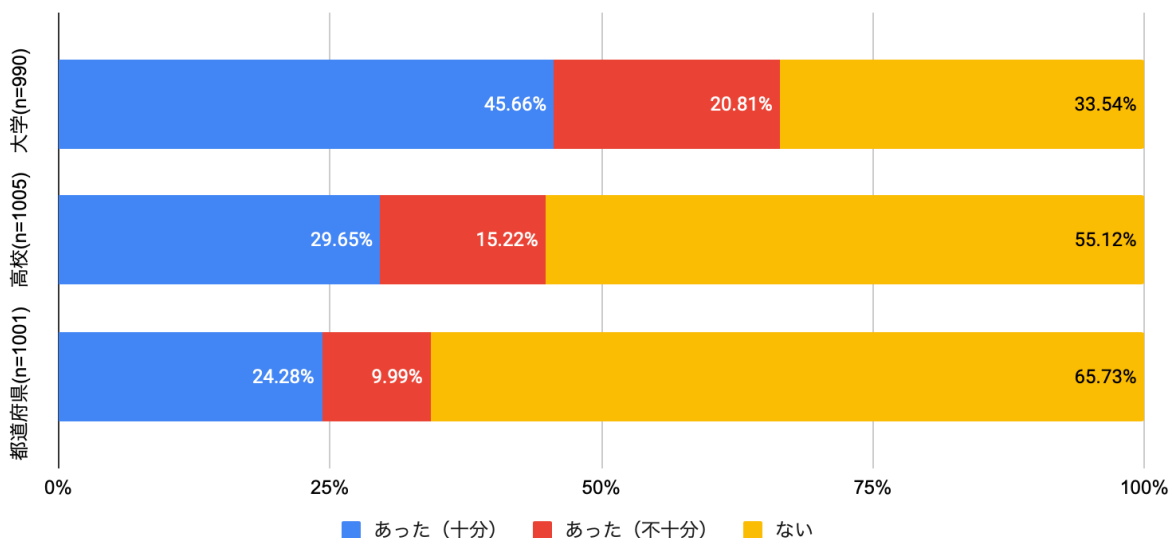
2-5) 制度の説明は未だ不十分

地域枠学生の学生、または地域枠制度の利用を検討したことのある学生に対し、「地域枠制度を利用する際、または、地域枠制度の利用を検討する際に、地域枠制度に関して、下のそれぞれからの説明はありましたか。また、その説明は十分でしたか。（回数、内容など）当てはまるものを選んでください」と質問をしました。その結果、7割近くの学生が大学からは説明があったと回答したものの、高等学校からの十分な説明があったと答えた学生は5割に届きませんでした。また、学生に対する説明に最も責任があると考えられる都道府県に関しては、十分な説明があったと答えた学生は4割に届きませんでした。また、大学・高校・都道府県のいずれにおいても、説明はあったが不十分であったと答えた学生が一定数みられました。

さらに、地域枠学生のみで集計した際、大学・高校・都道府県のすべての項目で「説明がなかった」と回答した学生の割合は、10.2% (61人/600人中)でした。

地域枠制度を利用する際、または、地域枠制度の利用を検討する際に、地域枠制度に関して、下のそれぞれからの説明はありましたか。また、その説明は十分でしたか。

※「あった」のうちの「十分・不十分」に回答がなかったものは含めていない



「地域枠入試を受験した際、または、地域枠制度の利用を検討した際に、地域枠制度に関してどのような説明がありましたか。また、どのような説明があればよかったですか。ご自由にお書きください」という質問に関しては、

「高校生の段階で、地域枠制度を利用して入学した場合どんな将来像になるのか、もっと知りたかった。18歳の子どもに10年後のことなど考えることはできないので、大人が教えるべきである（6年・女性・地域枠学生）」

「地域枠にも色々あって、わかりづらかったので、それらの区別を明確に説明して欲しかった（3年・男性・地域枠学生）」

といった記述が見られ、地域枠制度に関する説明が十分でないということが示唆されています。

地域により医師数や医師偏在の実態が異なるため、それぞれの地域に即した地域枠の制度が施行されています。そのため、学生が地域枠の制度を理解することは時に困難である場合もあり、そのため学生には都道府県や大学からの十分な説明が必要です。

このような地域枠の制度に関する学生への説明の十分でないということは、地域枠学生への支援・フォローを行う体制が不十分であるといえます。

また、医学部の中には、地域枠制度の契約条件について入学時になされた説明とは異なる内容に変更されていたにもかかわらず、

「義務履行の変更があった際はみんなに周知して欲しい（5年・男性・地域枠学生）」

「高校在学中の説明と大学に入ってからの内容が変わっていて困った。高校の時はなんとなくしかわかっていなかったし、地域枠の内容を高校生で完璧に理解するのは難しいと思う（4年・女性・地域枠学生）」

など、学生に周知がなされていなかったという声もあります。

2-6) 説明時期、説明回数にも工夫を求める声

地域枠の説明の時期に関して問題であったと考えている学生もいます。

「地域枠制度で定められた期間働いた後、どうなるのか。どのように定められた期間働くのか。医師になった後のビジョンがあまり見えなかったような気がする。あの時は合格するのに必死でそんなことも考える余裕はありませんでしたが…（3年・女性・非地域枠学生・地域枠制度の利用を検討したことがある）」

「一応地域枠入試を志願する人を集めて説明会などがあると良かった。特にセンター後に検討することが多いので、そのタイミングで開催してほしい（1年・男性・地域枠学生）」

「受験で出願する時に決めるのに、説明は合格してからなのはあまり良くないと感じる。もちろん自分で詳しく調べてから出願してはいるが、周りの人にはそれでも後悔している人は沢山いる。改善の余地はあると思う（3年・男性・地域枠学生）」

卒後どのように働くのか、その将来設計は、学年によって変わりうるものです。契約を結ぶことになる受験時だけではなく、学年や時期に応じて繰り返し丁寧に説明がなされること
が、地域枠学生の前向きなキャリア形成に必要ではないでしょうか。

2-7) 具体的なキャリアパスの提示を求める声

また、地域枠制度や卒後のキャリアパスなどの説明内容に関してより明確なものを求める
声もあります。

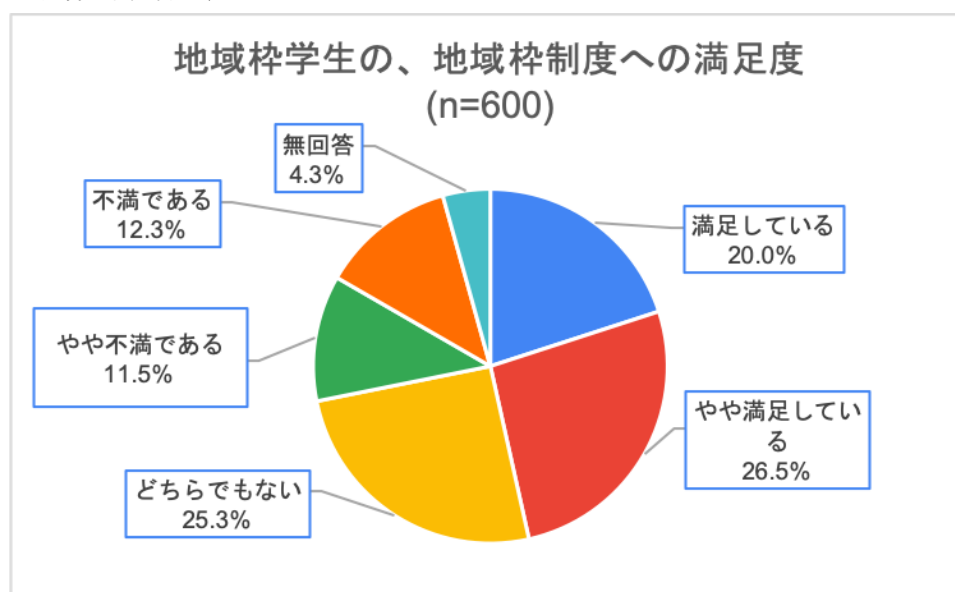
「もう少しさまざまな卒後キャリアについて説明してほしい (3年・女性・地域枠学生)」
「大学の研修制度に基づいて研修を行うとしか記載がなく、具体的な説明が全くなかったの
で、実際にどういった道を歩むことが出来るのかなどといったモデルを見せて欲しいと思っ
た (5年・男性・地域枠学生)」

「言葉や文章での説明だけでなく、実際にどのように動いている仕組みなのかを説明してほ
しかった (2年・女性・地域枠学生)」

「自分の大学の関連病院のうち、医師が不足している地域で卒後数年間は勤務することは説
明を受けた。しかし一部の専門性の高い診療科は選択できないということは説明を受けなかつ
た (5年・女性・非地域枠学生・地域枠制度の利用を検討したことがある)」

卒後の研修制度や専門医の取得などについて、支援が必要であるとする学生が多いこと
は先述の通りです。地域枠学生に対して、具体的なキャリアパスの描き方やロールモデルの
提示が必要であることが示唆されます。

2-8) 地域枠当事者の声



地域枠学生に対して「地域枠を利用して医学部に入学したことについて、また、地域枠学生として在学している今現在の状況や将来のことについてどう感じていますか。」と質問したところ、「満足している」「やや満足している」と回答した学生は46.5%でした。一方、「不満である」「やや不満である」と回答した学生は23.8%でした。

満足している理由として、

「奨学金をもらえることでバイトをする時間を勉強に費やすことができる（5年・女性・奨学金あり）」

「一般入試より低いハードルで医学部に入れたこと（4年・女性・奨学金なし）」

などのように、医学部で学ぶために奨学金や地域枠入試を上手く利用している学生からの声が上がりました。また、

「将来、地域で働く地域枠生のことをサポートするシステムが沢山あって、安心して任せられると思った（1年・女性・奨学金あり）」

「生まれ育った地域で医療を行うことで貢献したいと思っていたので、自分の希望の道に進めている感じがあり満足（5年・女性・奨学金の状況不明）」

などのように、自分の将来の希望に地域枠制度がマッチしているために満足している、といった意見もありました。

一方、不満に感じている学生からは、

「地域枠に関する説明、講習、奨学金などといったサポートを一切受けていない（3年・女性・奨学金なし）」

「将来自分の出身大学病院の医局に所属することを強制されている（5年・男性・奨学金なし）」

といったように、奨学金をはじめとする支援が無いにも関わらず将来の進路が狭められていることに対する不満の声が上がりました。他にも、

「医師になってから地域枠の制限があり、キャリア形成だけでなくプライベートな部分（結婚、出産、休暇など）も上手くいくか不安（5年・女性・奨学金あり）」

「卒後の研修やキャリアに対する知識や考えがない中、入学する時点でそういった進路を決めなければならないのはとても難しい（2年・男性・奨学金の状況不明）」

などのように、自分の将来に地域枠制度がどう絡んでくるのか分からないことからくる不安の声もありました。中には、

「奨学金を貰える“特別地域枠”と貰えない“地域枠”共に同じ縛りの条件に変更されて『理解しろ』などと言う方が非常識である（5年・男性・奨学金なし）」

「県や大学は私たちの義務を叫ぶばかりで、サポートしよう、支えようという姿勢が全くありません。地域枠で入学したくせに不満を言うな、という声が最も腹が立ちます（4年・男性・奨学金あり）」

などのように、地域枠学生への不誠実な対応に怒りをあらわにするような意見もありました。

3. まとめと提言

今回の調査によって、地域枠制度、ひいては地域医療に関する問題点が明らかになり、そして将来の地域医療を担うであろう学生たちの考えが見えてきました。問題点を階層的に捉え、解決に向けての方針を立てていきます。

3-1) 契約内容の明確化・遵守

地域枠制度では大学・都道府県側と学生との契約が取り交わされます。学生には制度・契約内容の十分な理解が求められる一方で、大学・都道府県側にはそれを説明する責任があります。また、入学時点での契約内容と明らかに異なる内容を卒業時に提示するということは明らかな契約違反であり、このようなことはあってはなりません。また、やむを得ない事情で離脱を考えなければならない学生も存在すると考えられます。そのため、地域枠の契約には離脱の条件についての記載が必須です。

以上のことから、医学連は、地域枠制度の運用に際し、大学・都道府県が契約内容を学生明示し、十分に説明していくように求めています。十分な説明には、適切な説明時期、説明回数、また適切な説明の方法（書面、口頭、説明会）ということが含まれます。

また、地域枠制度における契約内容の在学中の無断での変更などの事例が無いか全国から情報を取集し、実態調査を続けていきます。そして実際にそのようなことが生じていた場合には、省庁や関係機関と連携し学生の権利を守るよう働きかけていきます。

3-2) 在学中にも手厚いフォローアップを

地域枠制度における契約を背負って学生生活を送っている地域枠学生には、卒業後のライフプランやキャリア形成に関する定期的な情報提供や、時には地域枠からの離脱に関する相談をすることのできる身近な窓口が必要です。また、充実した地域医療教育を行うことは、将来従事するであろう地域、またその地域における医療に関する理解を深めることができ、地域枠学生のモチベーションの向上につながると考えられます。そのため医学連としては、地域枠学生に対する支援の状況の改善を求めています。

また、地域枠に関する理解が十分でないために、地域枠でない学生や指導医から地域枠学生へのマイナスイメージがもたれ、それにより地域枠学生にもマイナスな感情が生まれている現状もあります。地域枠学生の学生生活のためにも、このような制度運用の状況は改善す

べきことです。特に指導医からの地域枠学生に対するマイナスな言動の延長線上にはアカデミック・ハラスメントが潜んでいる可能性があります。学内におけるハラスメントは根絶するべきという医学連の立場からも、地域枠の理解を広めていくために医学連は各大学に働きかけていきます。

地域枠学生に「地域枠で入学したのならば、地域に従事する道義的責任がある」と求めるのであれば、地域枠制度を運用する大学や都道府県にも「地域枠を定めたならば、それをサポートする体制を整える道義的責任がある」とも言えるのではないのでしょうか。

3-3) 学生の声を取り入れられるように

将来、地域枠学生は地域枠制度の上で地域医療を担っていくことになると考えられます。そのため、地域医療を作っていく段階でそれらの学生を取り入れていくべきです。本来、地域枠制度は地域ごとの医師不足・医師偏在の問題を解消するために導入されているものであり、学生を地域に縛りつけるということが本質ではありません。必要なことは、学生の意見を取り入れた上で、福祉制度や労働環境の充実化をはかり、"そこで働きたいと思えるような地域"を作っていくことです。

4. 結語 ～管理より支援を～

「医学生が自ら進んで『この地に残りたい』と思えることが一番良いと思います（3年・男性・地域枠学生）」

この意見に代表されるように、学生が前向きに地域に残りたくなるような状況が、学生とつても地域にとつても、お互いの利益になると考えられます。

現在施行されている地域枠という制度は、入学時点において将来地域で働く意思のある学生を募り、その学生をその道から外れないように管理することによって、地域の医師不足問題・偏在問題に対処するものです。しかし、実際に必要なことは、その地域で医療を行いたいと考える学生を増やしていくことです。将来的には、地域枠制度にとどまらない医師不足・医師偏在対策を考えていく必要があります。

地域の医師不足・医師偏在の問題は、地域枠学生や地域医療に取り組む人々だけではなく、医療を作っていく人々全員で考えていくべきことです。私たちと一緒に、より良い医師確保の在り方について考えていきましょう。